

自助グループファシリテーター育成研修プログラム開催報告

自助グループ研修を開催しての所感

公益社団法人あおもり被害者支援センター

NNVS 認定コーディネーター ● 工藤美貴子 氏

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた様子が窺えたころ、対面での開催が実現し、21センター26名の参加者の皆さんと、感染防止対策実施のもと、貴重な時間を共に過ごし、共に学び考えることができました。開催に携わった一人として所感を述べさせていただきます。

全国被害者支援ネットワークでは、2019年に定めた第4期3年計画の施策である「自助グループ支援の充実・強化」において、1日目2日目はネットワークニュースを通じて各センターの自助グループの運営内容や課題の共有を図り、3日目である本年度は、自助グループの運営や会の進行等を担うファシリテーターの育成を目的とした研修を開催いたしました。

自助グループの運営に関しては、各センター様々な課題もあり、自助グループの有無にかかわらず、すべてのセンターの方々に参加し自助グループについて学び、意見交換し、共有できる研修であることも目的としてプログラムや内容について話し合いました。

研修の【1日目】は、被害者支援センターとちぎの和氣みち子氏から「自助グループの意義について」、被害者支援都民センターの阿久津照美氏から「自助グループの運営について」お話しいただきました。

和氣氏からは、現在とちぎでは2つの自助グループを運営しており、自助グループを必要と考え発足させるまで、発足後の活動等から意義や重要性を感じていただきたいとのこと、詳しくお話しいただきました。事件には大小はなく、大切な家族を亡くされたという共通のところに分け隔てなく接してほしい、また、犯罪被害者等が安心してきていただける雰囲気、常につながってほしいことなどを上げ、「自助グループは途切れない支援の一つとして重要であり、センターの事業として行ってほしい。」とのお話は、各センターの自助グループに携わっている支援員だけではなく、センターの責任者の方々も受け止めていかなければならないことと感じました。

阿久津氏からは、都民センターにおける自助グループの運営について、効果的な運営のために取り組んでいることやファシリテーターの役割などお話しいただきました。全体の流れの中で一人一人がどう感じているのか様子を観察しながら、全体を見る視点と個々を見る視点が重要であること、考え方の違いや対処などに違いがあっても、そこに良し悪しはなく、違いを認め合いながら共通点を見出し語り合わせることの大切さについてのお話などは、ファシリテーターの方

にとって重要な視点と感じました。立ち上げることも継続していくことも大変ではありますが、自助グループがあることは、ご遺族にとっても支援員にとっても大事であることを共有できたお話でした。

グループ討議では、立ち上げ準備について、メンバーの固定化、新規の参加者が少ないこと、欠席の方への対応等、出された課題について、工夫している点なども共有でき、「他のセンターも同じ悩みを抱えていることがわかり、今後、情報交換等がしやすくなり、問題解消の第一歩とすることができた」などの声をいただき、同じ課題を抱えたセンター同士の間で安心してよりよい自助グループとなるために話し合える関係が作れたのではないかと感じました。

【2日目】は、自センターの自助グループ活動について、お二人の方に発表をいただきました。自助グループの運営内容やスタッフの心掛けていること、自助グループの中で感じたこと、参加者の方々との定例会以外の活動など、共感するとともに、参考になるお話でした。もっと他のセンターのお話も聞きたかったという参加者の声も多かったことから、参加者の皆さんの関心も大きかったのだと感じました。続いて、武蔵野大学人間科学部教授の中島聡美氏から「複雑性悲嘆の概念と治療」についてお話しいただきました。悲嘆は愛着理論と類似性があること。また、一人ひとりの悲嘆があること。悲嘆は正常な反応だが、長期化や行動上の問題が認められるなどの注意が必要な悲嘆、複雑性悲嘆は専門的な治療が必要なことなどについて、専門的な内容をわかりやすくお話しいただき、ご遺族に接する支援者として理解を深められたお話でした。

参加者とともに研修を受けながら、すべてが学びになり、対面研修でもあったため、参加者の方々とも、共に共感したり励ましあったりと交流を深めることができた2日間と感じております。自助グループの必要性や重要性を改めて考えることとなり、この研修会の役割は、すべてのセンターで自助グループが事業の一つとして行えるよう、それぞれのセンターの抱える課題、立ち上げ準備についてや継続する中での悩みなどを共有し共に考えていける場として、今後も継続して行うことが大切と感じました。

終了後のアンケートから爽り多き研修会だったことが窺えました。研修会で得た知識や感じられた思いなどは、それぞれのセンターの皆さんとも共有し、犯罪被害者等の心に寄り添い共に歩む関係づくりをこれからも続けていくことを願っています。

<自助グループファシリテーター育成研修 プログラム> (敬称略)

1日目 2021年12月3日	
開会挨拶・オリエンテーション	ネットワーク専務理事 奥山栄一
自助グループの意義について	ネットワーク理事 和氣みち子
自助グループ運営について	被害者支援都民センター相談支援室長 阿久津照美
グループ討議	NNVS 認定コーディネーター 工藤美貴子(あおもり)・中曽根えり子(にいがた)
2日目 2021年12月4日	
センター内のファシリテーター育成の紹介	NNVS 認定コーディネーター 工藤美貴子(あおもり)・中曽根えり子(にいがた)
複雑性悲嘆に対する心理的ケア、グリーフケア	武蔵野大学人間科学部教授 中島聡美
修了式・閉会挨拶	ネットワーク専務理事 奥山栄一

<参加者の声>

- ▶「自助グループの意義や運営について」を聞いてここでもう一度自助グループの意味を再確認できました。グループ討議では他の県の課題が当センターの課題と同じ事を知ることができたり参考になることを知れたりとても充実した時間でした。
- ▶被害者であって自助グループを立ち上げられた講師のお話で自助グループの支援としての重要性をあらためて学び、その後実際の活動状況の報告を多くのセンターから聞くことが出来ました。そのなかではファシリテーターの役割と留意点を具体的にお聞き出来、グループで生じる難しい状況への対処としては、参加者一人一人の思いを受け止め違いを認めながら共通する思いに気づき支えあうことを学びました。なんとなくファシリテーターの難しさを感じていたのが進む方向を与えられました。複雑性悲嘆については専門的な治療が必要なのだを知り、被害者の方の悲嘆を丁寧に見守ることに気づきました。大変、有意義な研修でした。
- ▶コロナ禍、オンライン研修が増えていますが、オンラインでは、私は一方通行に感じてしまいます。久しぶりの対面式でのグループワークは活発な意見が出て、講師の先生に質問もできたので、参加できて本当に良かったです。コロナウィルス感染予防への配慮など、ありがとうございました。
- ▶武蔵野大学の中島先生の講義は、専門的な内容をわかりやすく説明していただき、現在、支援しているご遺族の方々に当てはまる事が多く、大変勉強になりました。



支援員に悲嘆をぶつけられるご遺族もいらっしゃるので、「なるほど、そうだったのか」と納得しながら、講義を受けました。

- ▶どの講師の講義も大変勉強になりました。開催時の様子を細かく読み取り終了後にお声かけをする・参加される方だけではなく、ずっとお休みされている方にも一言を添えたハガキやご案内を欠かさない・国の施策。新しい条例、制度などきちんと被害者の皆さんにお伝えできるよう心掛けるなど、これまで気付かなかった事や参考にしたい事ばかりで充実した時間でした。二日目の複雑性悲嘆の概念と治療については、支援員として学ぶべき専門的内容を学ぶ事ができました。
- ▶グループ討議の時に、各地区の皆様が抱えている問題点等共有できたので回数を増やしていただければ幸いです。
- ▶「各センターで抱えている問題点等」を話し合うことで、センターの問題にも気づけるのではと考えます。



発行：公益社団法人全国被害者支援ネットワーク